

SYOHEI ニュース 令和8年9月号

駅弁大学 衣川診療所医務技監 高橋久行

皆さんは駅弁大学という言葉をご存じでしょうか。地方国立大学を揶揄する言葉として、ネット上でしばしば目にします。戦後まもなく、GHQの主導で各県に文教の中心となるべく、高等教育機関だった旧制専門学校や師範学校などを統合して、国立大学が設置されました。戦前から大学であった旧帝国大学と同じ「大学」を名乗ることになったことで、ある評論家が皮肉まじりに、各県の主要駅には必ず駅弁があることになぞらえて、これらの地方国立大学を駅弁大学と名付けたのです。

かくいう私は駅弁大学の秋大（しゅうだい）の出身であり、父親もまた駅弁大学の一つ岩大（がんだい）の出身です。学部は違えども、ともに仙台の高校から、北へ向かって進学しました。私にとって母方のルーツが秋田にあり、叔父が秋大医学部の助手だったこともあって、秋大が志望校の一つとなっていました。結果的に父親と同じ立ち位置の地方国立大になってしまったことで、何か煮え切らないものを抱えての大学生活のスタートとなりました。それでも、次第に秋田の生活になじんでいき、県内の名所を巡るうちに、秋田が好きになりました。もちろん、いい思い出ばかりではありませんが、卒業して長い年月を経た今、不思議と秋田が自分の一部になっていることを感じます。とかく、ネガティブに語られることの多い秋田ですが、いつも秋田のことを気にかけていて、福島で生まれ宮城で育った私にとって、秋田は第三の故郷と呼べる存在になっています。

父親も終生、学生時代を過ごした盛岡や岩手への思い入れがあり、何度も当地を訪れていました。親元を離れて、社会に出るまでの多感な時期を過ごした場所というのは、時が経つにつれて第二、第三の故郷と覚えてくるのかも知れません。地方国立大の多くは歴史ある城下町に立地し、大都会の喧騒から離れ、落ち着いた学べる環境があります。東北地方で言うならば、大学のある弘前、盛岡、久保田、山形、米沢などは名だたる城

下町で、今でも城跡を中心として藩政時代の面影が残し、独特の文化が育まれています。仙台近郊のこれといった特徴のない小都市出身の私には、



秋田千秋公園久保田城表門

秋田のような城下町はとても魅力的に映り、そうした場所で人生のある時期を過ごしたことは大きな財産となっています。

大学大衆化の時代にあって、学歴よりも実力が重要であることは言うまでもありません。そうは言っても最終学歴は社会に出る出発点となるものであり、良くも悪くも生涯にわたり、付き合っていくことになります。旧帝大には学問をリードしてきたことに対してリスペクトの気持ちがありますが、すべての人が旧帝大をはじめとする有名大学を目指す必要はないのであって、身の丈に合った駅弁大学すなわち地方国立大という選択肢もまんざら悪くないと思っています。

・国民健康保険衣川診療所の概況・

所在地 〒029-4332 奥州市衣川古戸 48-3

TEL 0197-52-3500 **FAX** 0197-52-3502

URL <http://www.city.oshu.iwate.jp/>

E-mail : shinryousho-ko1@city.oshu.iwate.jp

診療開始年月日 平成元年 11 月 1 日

標榜科 内科・リハビリテーション科

許可病床数 一般 19 床

主な設備の概要

X 線一般撮影装置・超音波診断装置・理学療法機器・電子カルテ・医用画像管理システム・自動血球計数装置・16 列マルチスライス CT・作業療法機器・血液ガス分析装置・生化学分析装置・自動分包機（錠剤・散剤）・骨密度測定装置

勤務医師

職 名	医 師 名
医務技監	高橋 久行
医長	村澤 哲也

保健福祉活動

事業所健康診断、産業医・予防接種業務委託、各種健（検）診業務委託・特養ホーム（羽衣荘）嘱託医・学校医

大谷翔平選手の成績ボード（R8.8.27 現在）

打者：126 試合 打率 287 本塁打 30 打点 80 盗塁 9
投手：14 試合 勝利 8 敗戦 2 防御率 1.79 奪三振 95

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。

令和 8 年 8 月 27 日発行 奥州市医療局医師確保推進室

〒023-0053 奥州市水沢大手町 3-1 TEL0197-25-3833

市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。 第 77 号



奥州市の民俗芸能「川内神楽」

奥州市衣川上川内

・・ときを越え受け継がれるもの・・奥州遺産No.66 平成28年3月

【奥州市の神楽】奥州市の神楽の指定文化財保持団体は32団体（県1、市31）、その内訳は、南部神楽（22）、山伏神楽（6）、獅子舞（2）、権現舞（1）、太神楽（1）です。

南部神楽は、明治以降に農民達の手によって発達した極めて娯楽性の高い神楽です。浄瑠璃や歌舞伎・郷土の伝説を素材に平易な科白と大胆な所作が特徴で、その多くが北上川西部に分布しています。一方、北上川東部の旧江刺郡には、岳・大償の早池峰神楽を祖とする山伏神楽と瀬台野神楽を祖とする南部神楽が混在しているほか、太神楽も伝承されています。：広報おうしゅう「奥州遺産」には3神楽が掲載されています。今回は川内神楽をご紹介します。

衣川の中心部から県道49号線を南に進み、天河橋を渡った先の河内行政区に、川内神楽は伝承されている。

1772年頃、衣川村川内要害の利平氏が、一関市巖美町の政吉氏に師匠を依頼。農村青年の娯楽として、神社の豊年祭りなどに奉納したのが起源だといわれる。南部神楽系の三輪流で、日本神話を題材にした神事・祈祷のための「式舞(式神楽)」と、地域の伝説などを基にした「劇神楽」を合わせ、20演目を伝承する。

大正5年に平泉町戸河内、15年に前沢町白鳥神楽を指導するなど、大正末期～昭和初期に最盛を迎えた。その後、戦争などで絶滅寸前となったが、昭和21年から地域の有志が絶やさずに受け継ぎ、53年に旧衣川村の無形文化財に指定された。



1 ころもがわ神楽まつりで演じられた「扇の的」。屋島の戦いで那須与一が平家方の小舟の上の的を射落とした平家物語の名場面を熱演 2 牛若丸（右）が源氏の兵法書“多神通虎の巻物”を四国熊山城主の鬼一法眼（左）から取り戻す「宝蔵破り」。義経にまつわる演目は劇神楽でも人気だ



現在、12代目一座の川内神楽保存会（菅原宏代表）が、伝統の式舞いを守りながら劇神楽にも磨きを掛けている川内神楽。衣川最古の神楽の火は煌々と燃え続ける。

【神楽とは】 招魂・鎮魂の神祭に奏されてきた芸能で、神楽の語源は神座の約音とされています。宮中の御神楽と民間の神楽に大別され、民間では巫女、神主、山伏によって全国に伝承されてきました。岩手県では修験山伏が組織した山伏神楽が最も多く、次いで修験道廃止後、農民達によって発達した県南地方の南部神楽(科白神楽)となっており、このほかに大乗神楽、社風神楽、太神楽などがあります。